

(9) 浮魚類資源調査

予算

水産資源調査・評価推進委託事業（水産庁委託）

概要

浮魚類の長期的な資源および漁業の動向把握を目的として、標本船・標本漁協の漁獲データ、漁獲物の体長組成、および漁船の操業海域・統数について、継続的に調査を実施している。2020年は、漁獲量ではシラス（標本漁協）が前年比100%、カタクチイワシ（巾着網標本船）が前年比458%、マイワシ（同）が前年比48%、マアジ（同）が前年比37%、マサバ（同）は前年比88%の漁獲であった。また、本事業で得られた情報を用いて4回（春シラス、イワシ類、秋シラス（前半、後半）漁況予報を行い、大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ（水産分野）（<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/shirasu/index.html>）で公表した。

調査方法

1. 調査定点
 - 1) 漁獲調査
巾着網標本船、および南部標本漁協における漁獲データをとりまとめた。
 - 2) 卵稚仔調査
大阪湾全域20定点（浅海定線調査に準じる）
2. 調査期間と実施日
2020年1月～2020年12月
3. 調査項目
巾着網魚種別漁獲量、シラス漁獲量、シラスの混獲割合、カタクチイワシ卵稚仔採集数等
4. 調査船
漁業調査船「おおさか」（19トン、680 kw×2基）

調査結果

表1、2、3、4のとおり。予報文については資料1、2、3、4参照。

担当者

大美博昭、辻村裕紀

表1 浮魚類資源調査 巾着網標本船における魚種別漁獲量 (1ヶ統あたり)

単位：トン

魚種\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カタクチイワシ	0	49.9	28.2	176.0	143.0	331.2	11.6	12.2	22.6	371.3	201.3	102.6
マイワシ	0	29.1	1.2	0.1	0	0	226.1	181.6	87.5	32.9	0	0
マアジ	0	0	0	0	0	0.2	1.7	5.1	8.3	0.9	0	0
マサバ	0.2	5.5	0.2	0.1	0	1	3.6	9.9	2.4	0.5	0	0

表2 浮魚類資源調査 南部標本漁協におけるシラス漁獲量結果

単位：トン

魚種\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シラス	0	0	15	5	17.4	82.6	34.3	48.8	38.5	12.7	61.4	36.9

表3 浮魚類資源調査 シラス混獲割合と平均全長結果

魚種\採集日	4月30日	5月7日	5月12日	5月21日	5月28日	6月8日	6月16日	6月16日	6月22日
マシラス	79	31	17	2	8	1	1	0	0
カタクチシラス	105	106	234	201	178	255	384	233	331
ウルメシラス	74	290	73	368	123	8	0	0	0
マシラス	30.6	7.3	5.2	0.4	2.6	0.4	0.3	0.0	0.0
カタクチシラス	40.7	24.8	72.2	35.2	57.6	96.6	99.7	100.0	100.0
ウルメシラス	28.7	67.9	22.5	64.4	39.8	3.0	0.0	0.0	0.0
マシラス	31.8	25.5	29.7	23.2	31.7	26.2	28.8	—	—
カタクチシラス	35.5	26.4	29.9	23.2	30.2	22.7	24.1	30.7	28.0
ウルメシラス	26.9	27.0	29.6	21.3	29.5	27.6	—	—	—

上段：混獲尾数 中段：混獲割合(%) 下段：平均全長(mm)

表4 浮魚類資源調査 カタクチイワシ卵定点別採集数結果

丸特ネット1曳網当たり

定点\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	0	0	0	4	1	3	2	1	0	45	0	0
2	0	0	0	0	7	3	1	5	2	5	0	0
3	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0
4	0	0	0	1	0	0	0	2	3	0	0	0
5	0	0	0	2	12	7	0	2	0	3	0	0
6	0	0	0	17	44	3	4	0	0	2	0	0
7	0	0	0	12	4	1	4	0	0	2	0	0
8	0	0	0	2	30	3	6	0	32	0	6	0
9	0	0	0	27	0	710	48	78	1	0	47	0
10	0	0	0	30	14	174	23	7	2	0	0	0
11	0	0	0	17	1	563	32	8	0	22	13	0
12	0	0	0	110	23	3780	659	13	44	28	108	9
13	0	0	0	5	63	3	19	2	21	742	5	1
14	0	0	0	52	309	1451	184	25	973	239	122	20
15	0	0	0	847	2557	1274	249	18	122	55	182	1
16	0	0	0	146	1258	1088	107	45	112	14	639	1
17	1	0	0	6	8	4	59	25	0	22	2	1
18	0	0	0	35	358	15	108	0	0	5	14	0
19	0	0	0	10	0	415	1	12	50	338	35	0
20	0	0	0	285	81	437	27	4	0	19	199	0

令和2年春季シラス(5~6月前半)漁況予報

令和2年4月30日

水産技術センター

今後の見通しのポイント

春シラス漁：前年並～下回る。

1. 海況の概況

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、離岸傾向が継続し、本年に入っても4月中旬まで大きく離岸する状況が続いています(下表)。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、今年4~7月における潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されており、春季シラス漁期である5~6月前半は離岸して推移すると考えられます。

表 潮岬沖における黒潮の離岸距離 単位：海里(1海里=1,852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨昨年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
一昨年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
前年	98	113	109	118	115	106	94	48	93	66	96	113
本年	115	121	149	168								

※本年4月は中旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

2. カタクチイワシ卵の出現量および漁況の概要

本年1~3月の日向灘~紀伊水道外域における調査では、カタクチイワシ産卵量(暫定値)は前年の462%、平年(2009~2018年の平均値、以下同じ)の62%と、前年は上回ったものの、平年を大きく下回る水準となりました。また、徳島県、和歌山県の情報によると、紀伊水道外域および紀伊水道では2月、3月にカタクチイワシ卵の採集数は少なく、平年に比べ低調な産卵水準でした。大阪湾内では4月上旬の水産技術センターの調査で、前年、平年を大きく上回る数の卵が採集され、今期の産卵は例年よりも早めに始まったものと推測されます。

紀伊水道周辺における本年春季漁は、外域での漁況は4月以降、安定した漁獲となっており、水道内では徳島県で漁が始まっている模様です。

3. 漁況の予測

大阪湾で春季に漁獲の対象となるシラスは、漁期前半は外海域(日向灘~紀伊水道)で発生し補給されるイワシシラス(カタクチイワシ、ウルメイワシ、マイワシの3種。近年、マイワシシラスの混獲率が上向く傾向にあります。)が主体となります。このため、大阪湾での春季シラス漁の好、不漁は外海域での発生量が多いか少ないか、さらにそれらがシラスとなって大阪湾まで補給されるかどうかにより大きく影響されます。また、漁期後半では大阪湾内で生まれたカタクチシラス(内海発生群)の加入状況が漁模様に大きく影響します。

前年(2019年)は、春シラスの補給源となる外海域でのカタクチイワシの産卵量が低

資料1 令和2年春季シラス漁況予報 続き

水準で、しかも潮岬での黒潮の離岸により大阪湾への補給が遅れ、大阪湾内での本格的な漁獲は前年と同様に5月から始まりました。漁開始当初の漁獲量は前年同時期を上回りましたが、5月はウルメシラスの混獲尾数割合が約3~4割と前年(1~2割)に比べ高く、また、マシラスが1~3割ほど(前年約2割)混獲されていました。その後、6月上旬に湾内発生と考えられるカタクチシラスの加入がみられ始めましたが、6月前半までの漁獲量は好漁となった前年同時期(2018年)を下回りました。

本年は、潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続するという予測および外海でのカタクチイワシの発生が平年を大きく下回る水準と考えられることから、大阪湾へのシラスの補給は期待できず、大阪湾内へのカタクチシラスの来遊量は前年同様、平年を下回る水準であると推測されます。

一方、内海発生群については、例年、6月中~下旬に加入が始まると考えられていますが、近年では5月中旬~6月上旬に大きな加入がみられる年があります。本年における水温は、1月中旬以降現在まで平年より高めで推移しています。気象庁の長期予報では5月から6月は平年並から高めの確率が高いことから、水温は今後も高めで推移すると考えられます。また、4月調査でカタクチイワシ卵の採集数が前年を大きく上回ったことから、内海発生群の加入時期は例年よりも早い5月下旬~6月上旬の可能性がありますが、ただし、この群れの加入については現時点で不確実な状況です。

これらのことから、本年の春季シラス漁(5~6月前半)は、前年並~下回る水準の漁となるでしょう。

なお、今後の大阪湾内発生群の状況については、5月中旬に大阪湾におけるカタクチイワシの産卵情報を、また、夏季シラス漁、マイワシ、カタクチイワシ漁については例年どおり6月上旬に漁況予報を、それぞれ発表する予定ですので、参考にしてください。

今後の見通しのポイント

夏シラス：前年を上回る。
 カタクチイワシ：不漁だった前年を上回るが、平年を下回る。
 マイワシ：好漁だった前年を下回る。

1. 海況の概況

○水温(大阪湾、10m層)

大阪湾の水温は本年1月以降4月までは平年よりかなり高めで推移し、5月から6月にかけて平年並みに近づきました(図1)。今後の大阪湾の水温は、気象予報等から判断すると平年並み～高めで推移すると考えられます。

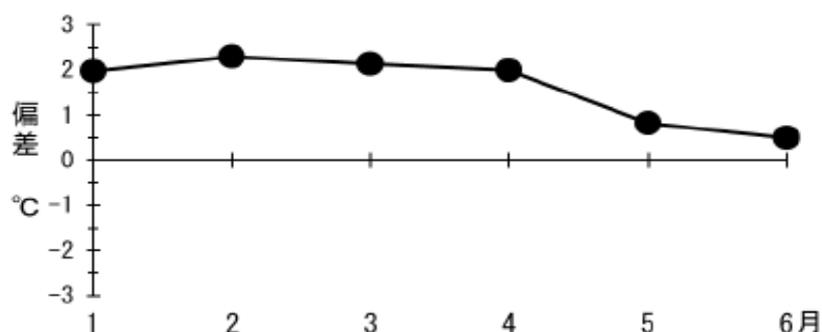


図1 大阪湾の水温平年偏差 (10m層、20 定点平均値)

○黒潮(潮岬正南沖)

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、離岸傾向が継続し、本年に入っても4月中旬まで大きく離岸する状況が続いています(表1)。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本予報期間中は潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離 単位：海里(1海里=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2017年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
2018年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
2019年	98	113	109	118	115	106	94	48	93	66	96	113
2020年	115	121	149	159	235	255						

※2020年6月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す
 ※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

2. イワシ類の漁況、卵の出現状況と予報

(1)夏シラス（6月後半～8月）

・春シラス（6月前半まで）漁況の概況

本年の大阪湾における春シラス漁は、4月6日に一部の船が出漁して以降休漁し、4月30日から再び出漁が開始されました。黒潮が大きく離岸し、紀伊水道からのシラスの補給が期待できない状況もあり、5月の漁獲量は前年同時期を大きく下回りました。なお、5月はウルメシラスが約2～7割（前年3～4割）、マシラスが1割未満（前年約1～3割）ほど混獲されていました。その後、6月上旬になり漁獲量に増加傾向がみられ、カタクチシラスの割合も9割を超えています。

・カタクチイワシ卵の出現

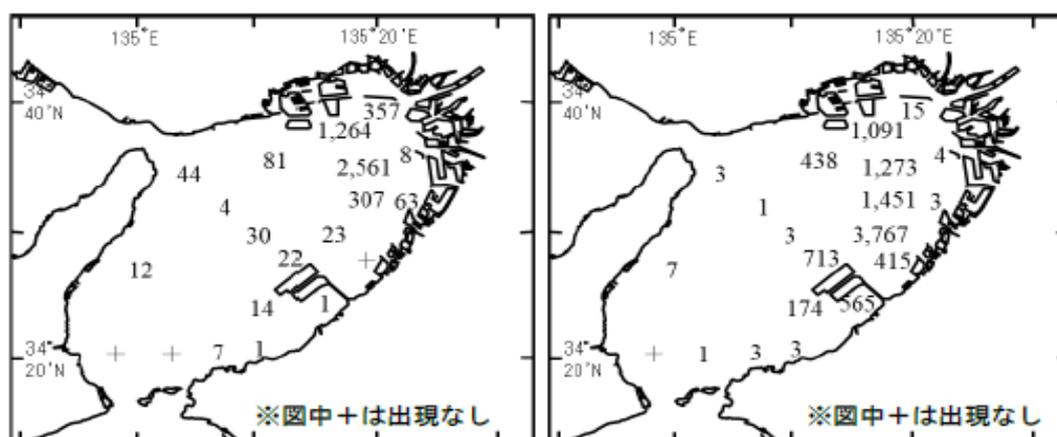
本年のカタクチイワシ卵は、4月からまとまった採集量がみられ、5月はプランクトンネット1曳網当たり240.0粒、6月は同496.5粒でした。これらを前年、平年と比較すると、5月は前年の1076%、平年の599%、6月は同じく493%、647%となり、5月、6月ともに前年、平年を上大きく回る量となりました。以上の状況から、本年春季の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵水準は前年、平年を上回る水準と推定されます。

卵は、5月は湾北東部、6月は湾東部に集中して出現していました（表2、図2）。なお、カタクチイワシ稚仔については、5月の採集数は前年の131.3%、平年の65.9%でしたが、6月は前年の768.1%、平年の879.9%と前年、平年を大きく上回りました。

表2 カタクチイワシ卵の採集数（本年は速報値）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	1.6	40.0	76.7	34.1	27.6	21.2	4.6	1.5	0.4
過去5年	0	0	0	9.1	73.1	99.5	51.8	32.3	15.4	2.9	3.7	1.9
前年	0	0	0	7.3	22.3	100.7	31.9	42.4	18.5	8.6	7.4	8.5
本年	0.1	0	0	80.3	240.0	496.5						

平年値：1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)



2020年5月

2020年6月

図2 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット1曳網あたり）

資料2 令和2年イワシ類漁況予報 続き

・漁況予報

大阪湾における夏シラス漁は、外海発生群(紀伊水道を通過して大阪湾に来遊する)が春シラスに引き続き漁獲されるのに加え、大阪湾内発生群が6月以降シラスとなって漁獲物に加入します。

黒潮は本予報期間中も離岸傾向が続くことが予測されており、今後の外海発生群の漁獲はあまり期待できません。一方、本年、現時点における大阪湾内での発生群は、6月の卵稚仔の出現状況から前年を上回る水準と推測されます。なお、漁期後半における加入については現時点で不確実な状況です。

以上から、本年の夏シラス漁は、前年を上回る漁況となるでしょう。

(2) カタクチイワシ

大阪湾におけるカタクチイワシ漁では、漁期当初は前年発生1歳魚が、その後、春季にシラスとして加入した0歳魚が漁獲の主体になります。

前年発生1歳魚(体長10cm前後)については、本年春季における漁獲は前年を上回りました。一方、本年の春シラス漁は、前年同時期を下回る漁獲となり、0歳魚については前年同様少ないと見込まれます。これらのことから、本年のカタクチイワシ漁は、不漁であった前年を上回りますが、平年は下回ると考えられます。

(3) マイワシ

マイワシの全国漁獲量は昭和63年に450万トンもありましたが、平成17年には3万トンまで減少しました。その後は3~8万トン程度の低水準にありましたが、近年は増加傾向がみられます。

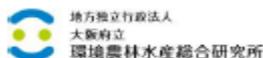
大阪府においては昭和62年からマイワシ漁獲量に減少傾向がみられ、平成10年には最も漁獲量の多かった昭和57年の1000分の1にまで減少しました。現在も依然低水準ですが、平成18年以降若干回復傾向もみられ、平成27年以降、まとまった漁が続き、前年は好漁となりました。

国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本年春季(2、3月)の外海域におけるマイワシの産卵量は前年を下回りました。また、大阪湾内では春シラス漁において、漁獲量が前年を下回ったことから、大阪湾内への流入は前年を下回る水準であったことが推測されます。

このようなことから、本年の大阪湾におけるマイワシ漁は好漁だった前年を下回ると考えられます。

今後大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬に、また、秋シラス漁の漁況予報については昨年同様9月、11月に再度発表する予定ですので、参考にしてください。

資料3 令和2年秋季前半シラス漁況予報



令和2年秋季（9～10月）シラス漁況予報

水産技術センター
令和2年9月15日

今後の見通しのポイント

秋シラス（9～10月）：前年並～下回る

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

大阪湾の10m層水温は、1月から9月まで8月を除き「平年より高め」で推移しています。（図1）。気象庁による9～11月の天候見通しでは、平均気温は高い確率50%と予想されていることから、今後の水温は平年並み～高めで推移するものと推測されます。

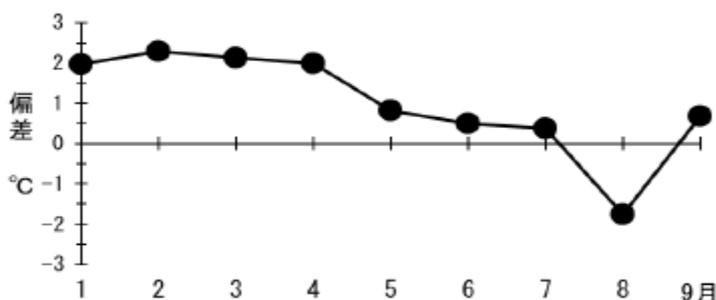


図1 大阪湾の水温平年偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化し、本年に入っても現在まで大きく離岸する状況が続いています（表1）。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本予報期間中も潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里（1海里=1852m）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2017年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
2018年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
2019年	98	113	109	118	115	106	94	48	93	66	96	113
2020年	115	121	149	159	235	263	183	115	245			

※本年9月は中旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

(2) これまでのカタクチイワシの産卵状況および漁況の推移

本年の大阪湾における春シラス漁は、4月6日に一部の船が出漁して以降休漁し、4月30日から再び出漁が開始されました。黒潮が大きく離岸し、紀伊水道からのシラスの補給が期待できない状況もあり、5月の漁獲量は前年を大きく下回りました。なお、5月はウルメシラスが約2～7割（前年3～4割）、マシラスが1割未満（前年約1～3割）ほど混獲されていました。その後、6月上旬からカタクチシラス主体となり、漁獲も上向きましたが、6月は前年を下回りました。7月になり、前半は前年を大きく上回りましたが、7月後半～8月前半は低調な漁獲が続きました。8月下旬～9月上旬は、前年を上回る漁獲となっています。

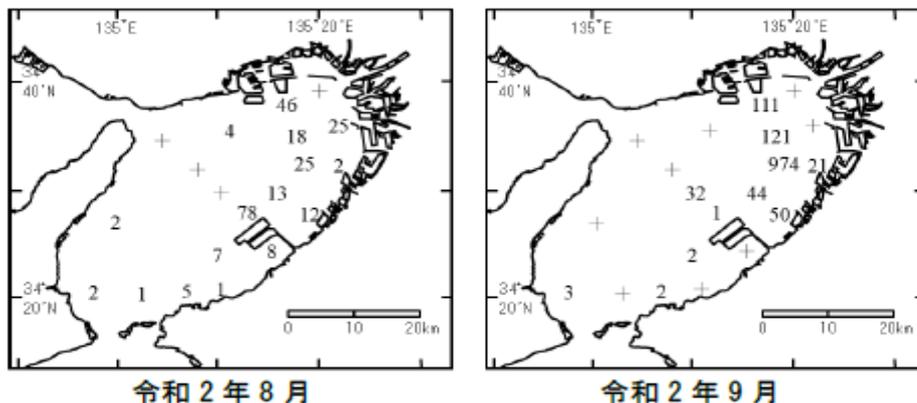
(3) 8月、9月におけるカタクチイワシ卵の出現状況

本年のカタクチイワシ卵は湾北東部の海域で採集され、8月はプランクトンネット1曳網当たり12.5粒、9月は68.1粒でした。これを平年、前年と比較しますと、8月は平年の45%、前年の29%と平年、前年を下回り、9月は平年の322%、前年の368%で平年、前年を上回る採集数でした。ただし、9月は湾北東部の1定点で全体の7割の卵が採集されました。以上のことから両月の採集数を総合すると、本年8～9月の大阪湾におけるカタクチイワシ産卵量は、9月は卵の採集数は多かったものの1定点に集中しており、全体として前年並みの水準であったと推定されます（表2、図2）。一方、稚仔の採集数は、8月は平年、前年を大きく下回り、9月は前年並みでした。

表2 カタクチイワシ卵の採集数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	1.6	40.0	76.7	34.1	27.6	21.2	4.6	1.5	0.4
過去5年	0	0	0	9.1	73.1	99.5	51.8	32.3	15.4	2.9	3.7	1.9
前年	0	0	0	7.3	22.3	100.7	31.9	42.4	18.5	8.6	7.4	8.5
本年	0.1	0	0	80.3	240.0	496.5	76.7	12.5	68.1			

平年値 :1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)



令和2年8月 令和2年9月
 図2 カタクチイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網あたり)
 ※ 図中+は出現なし

資料3 令和2年秋季前半シラス漁況予報 続き

2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてからシラスとして漁獲され始めるまで約3週間、主漁獲対象になるまで1ヶ月弱かかります。そのため8、9月の卵の量と、この間の生き残りが秋シラスの漁獲量に大きく影響します。

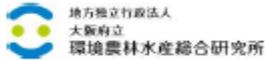
本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は、全体として前年並みの水準であったと推定されます。稚仔の採集数は前年並～下回りました。8月下旬～9月上旬の漁模様から生き残り条件は悪くない可能性が考えられます。これらのことから、今後のシラス漁への加入水準は前年並～下回ると考えられます。一方、他海域からのシラスの補給については、潮岬沖での黒潮は離岸傾向が続くことから、あまり望めない状況にあります。

以上のことから、**本年秋季（9～10月）のシラス漁は、近年では好漁となった前年並～下回る漁となるでしょう。**

近年は、晩秋季の11月以降もシラスが漁獲されるため、平成21年より秋季シラスを前半（9～10月）と後半（11～12月）に分けて予測しています。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬ごろに発表するとともに、後半の秋季シラス漁況予測については、今後の卵の出現、親魚の状況、海況、他県の漁況等から10月下旬頃にあらためて発表する予定にしておりますので、参考にしてください。

資料4 平成30年秋季後半シラス漁況予報



令和2年秋季（11～12月）シラス漁況予報

水産技術センター
令和2年11月13日

今後の見通しのポイント

秋シラス：昨年並～昨年を上回る。

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温(大阪湾、10m層)

大阪湾の10m層水温は平年並みで推移しています(図1)。今後の水温は、気象庁による11～1月の天候見通しでは、11月の平均気温は「平年並み」「高い」確率が40%、12月は「平年並み」「低い」確率が40%であることから、今後の水温は平年並みで推移するものと推測されます。

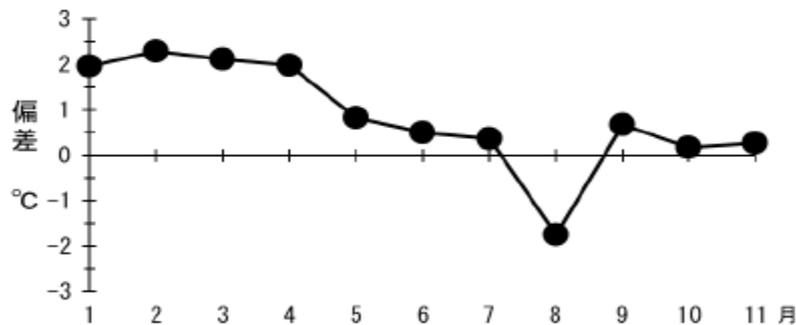


図1 大阪湾の水温偏差 (10m層、大阪湾20定点平均)

○黒潮(潮岬正南沖)

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、離岸傾向に変化し、本年に入っても9月まで大きく離岸する状況が続いていました。しかし、10月になるとこれまでと比べ接岸傾向に変化しています(表1)。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離 単位：海里(1海里=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2017年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
2018年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
2019年	98	113	109	116	115	106	94	48	93	66	96	113
2020年	115	121	149	159	235	263	183	115	243	40	45	

※本年11月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋通報」のデータから算出

資料4 平成30年秋季後半シラス漁況予報 続き

(2) 漁況

本年の大阪湾における夏～秋シラス漁は、各月の卵の出現状況は8月を除き昨年を大きく上回ったものの、シラス漁が好調に推移したのは8月下旬から9月上旬のみで、全般的に漁獲は好漁であった昨年を大きく下回りました。11月上旬現在もシラス漁は継続しており、10月下旬以降は漁獲が上向き、昨年並みの漁獲となっています。

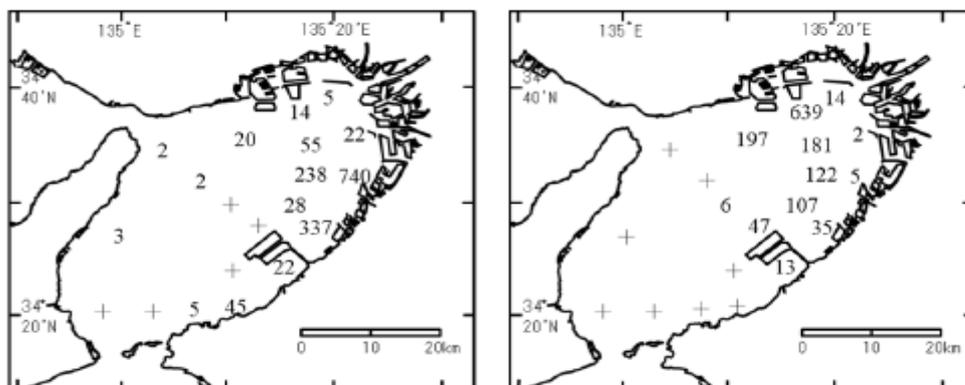
(3) カタクチイワシ卵

本年のカタクチイワシ卵の採集数は、10月はプランクトンネット1曳網当たり76.9粒、11月は68.4粒で、平年、昨年を大きく上回りました。一方、卵の分布をみると、10月、11月ともに湾奥から東部沿岸の海域で採集されました。

以上のことから、本年10、11月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は、平年、昨年を大きく上回る水準と推定されます(表2、図3)。

表2 カタクチイワシ卵の採集数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	1.6	40.0	76.7	34.1	27.6	21.2	4.6	1.5	0.4
過去5年	0	0	0	9.1	73.1	99.5	51.8	32.3	15.4	2.9	3.7	1.9
前年	0	0	0	7.3	22.3	100.7	31.9	42.4	18.5	8.6	7.4	8.5
本年	0.1	0	0	80.3	240.0	496.5	76.7	12.5	68.1	76.9	68.4	
平年値	:1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)											



令和2年10月

令和2年11月

図3 カタクチイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網当たり)

+は採集されなかったことを示す

資料4 平成30年秋季後半シラス漁況予報 続き

2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてから主漁獲対象になるまで1ヶ月と少しかかります。そのため9月後半から11月の卵の量と、この間の生き残りが本予報期間のシラスの漁獲量に大きく影響します。

去年は、11月下旬にややまとまった加入があり、12月は好調に推移しましたが、本予報期間としては平年並みの漁獲となりました。

今年は、10月の産卵水準が平年、昨年を大きく上回ったものの、11月上旬現在の漁獲は昨年並であることから、これまでの稚仔の生き残りは良好と言えない状況です。一方、11月の産卵水準も平年、昨年を大きく上回っていますが、本年のこれまでの状況から稚仔の生き残りに懸念があることや今後の水温低下が昨年に比べ早い可能性もあることなどを考え併せると今後の湾内発生シラスの加入は昨年並～上回ると推測されます。

以上のことから、本年秋季（11～12月）のシラス漁は昨年並～昨年を上回る漁況となるでしょう。